

3. 基本方向と将来都市構造

地区の現況及びまちづくりの課題を踏まえ、目指すべき地区の将来像を設定し、その実現を支える基本理念と、将来像に向けて進める施策等の基本方向を掲げる。

1 地区の将来像

内郷地区は、古代の遺跡や平安時代に建立された国宝白水阿弥陀堂などの価値ある歴史遺産に加え、常磐炭田の中心地として栄えた経緯から多くの産業遺構を有するほか、獅子舞や回轉櫓盆踊り大会等の文化、鉱泉やホテル、サンショウウオ等が棲息する自然環境、医療や保健・福祉の広域拠点施設など、まちづくりの資源となるものが豊富にある地区である。

内郷地区のまちづくりは、これらの資源を地区の「宝」と捉え、「宝」が輝きを増し、その輝きを誇れるよう、市民相互、市民と行政が協力しあって進めていくものとする。この考え方を集約したキャッチフレーズとして、地区の将来像を次のように掲げる。

たから さと
宝 の 郷



住吉一坑跡



高坂諏訪神社の獅子舞

2 基本理念

◎宝を発掘し、愛し、磨き、活かす

「宝の郷（たからのさと）」づくりは、地区の市民や地区に関わる人々が「宝」を資源として認識し、現状の資源に加えてさらに埋もれた宝を見出して「宝」を増やしていくこと、それらの「宝」を良く知り、誇りと愛着を持って守っていくこと、その「宝」に磨きをかけて価値をより高める工夫や努力を重ねていくこと、そして、多くの宝をまちづくりに活用し、まちの輝きを創り出していくことによって進められる。

この「宝を発掘し、宝を愛し、宝を磨き、宝を活かす」を共通姿勢として持ちながら行動することを第一の基本理念とする。

◎いわきの「へそ」としての気概を持つ

内郷地区は、地理的にいわき市の中央部にあり、地区内に常磐自動車道と磐越自動車道のジャンクションを持ち、広域幹線道路である国道6号と49号も地区内で接続する。

いわきの産業発展の基礎をなした石炭産業も内郷地区での露頭の発見から始まり、広域的な医療拠点である総合磐城共立病院や全市的な保健福祉の中核である総合保健福祉センターも有する。

こうした環境を活かし、行政や商業の中心である「平地区」に隣接しつつも、全市的な人々の生活や文化を支える中心的役割（へそ）の一翼を担うことを自覚して、個性あるまちづくりを進めることを第二の基本理念とする。

◎将来への持続可能性を追求する

全国的な少子高齢化と人口減少の動向を先取りする形で進むいわき市内でも、内郷地区の人口減少率は高い状況が続いており、地区の活力維持にも不安が持たれるが、「宝の郷（たからのさと）」を目指した魅力あるまちづくりの行動によって、人口減少下でも安心して暮らすことができ、人と人との絆を深めながら活気を失わない工夫や努力を続けていくことを第三の基本理念とする。

そして、その努力によって増す「宝」の輝きが新たな人を呼び、将来に向かって持続可能なまちであることを目指す。

◎地区を一体に結び周囲とも連携する

内郷地区は、東部の市街地から西部の山里まで様々な環境を持つが、大半が新川水系によって結ばれており、一体の地区としての意識は強い。今後も、地区の一体感を一層深め、市街地や郊外、山里などが相互に連携し、補完しあって、便利で快適、安全なまちづくりを進めなければならない。

地区東西の結びつきをハード、ソフト両面で強めると同時に、平や常磐、好間をはじめ市内各地区とも有機的に連携し、交流を広げることを第四の基本理念とする。

3 まちづくりの基本方向

基本理念に沿って、「宝の郷（たからのさと）」を目指して取り組む内郷地区のまちづくり方策は、次の基本方向により展開する。

- 歴史かがやく郷（さと）づくり
- 健康はぐくむ郷（さと）づくり
- 心つながる郷（さと）づくり
- 活気みなぎる郷（さと）づくり
- 環境つちかう郷（さと）づくり

○歴史かがやく郷（さと）づくり

古代遺跡や炭鉱遺構など、国宝も含めた豊富な歴史文化遺産を後世に継承するとともに、それらを十分に活用して、地区の個性化、人を呼べる魅力づくりにつながる方策を展開する。

○健康はぐくむ郷（さと）づくり

総合磐城共立病院の敷地に建設される高度医療の拠点ともなる新病院や総合保健福祉センターを有する地区として、健康ネットワークを拡充させ、良好な福祉環境を持ち、スポーツも盛んな地区となるような方策を展開する。

○心つながる郷（さと）づくり

東日本大震災によって見直された人と人とのつながりを大切にし、さらにそのつながりを強化できるよう、地区間、世代間の交流を拡大し、コミュニティや学びの場の機能を充実させる方策を展開する。

○活気みなぎる郷（さと）づくり

石炭産業の衰退とともに産業活力が低下した内郷地区も、新旧の地場産業の活性化や商工業の振興によりにぎわいを呼び戻し、その情報を発信することで活性化を導く方策を展開する。

○環境つちかう郷（さと）づくり

生活の利便性、安全性、快適性などを兼ね備えた美しく住みよい環境づくりのため、道路・交通網や公園、河川などの都市基盤の充実と維持管理に万全を期すとともに、防災対策や景観形成、人にやさしく自然と共生できるまちづくりを目指した方策を展開する。



炭砒（ヤマ）の案内人の活動

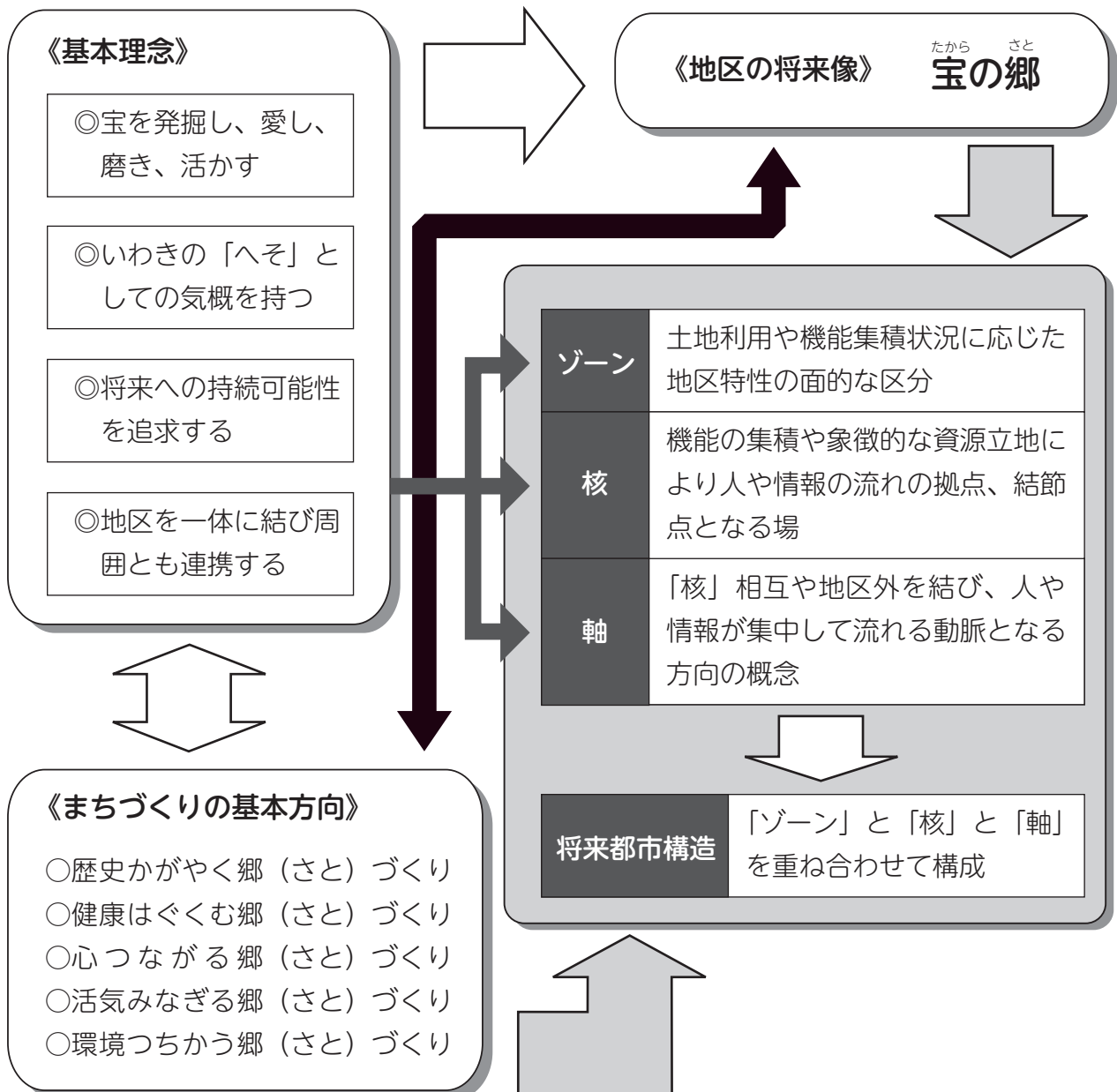
4 将来都市構造

内郷の将来像を基本方向に沿って具現化し、形成すべき都市構造を次のように設定する。

ア) 基本構成——「ゾーン」と「核」と「軸」

内郷地区は、市街地から郊外、山里まで多様な環境を持つため、それらに応じたゾーンを設定し、各ゾーンの特性に配慮したまちづくりを進めるとともに、その上で、様々な活動の拠点となる「核」を置き、また、「核」を結び人・もの・情報が流れる動脈となる「軸」を設定し、それぞれの機能を集約的に強化していく。

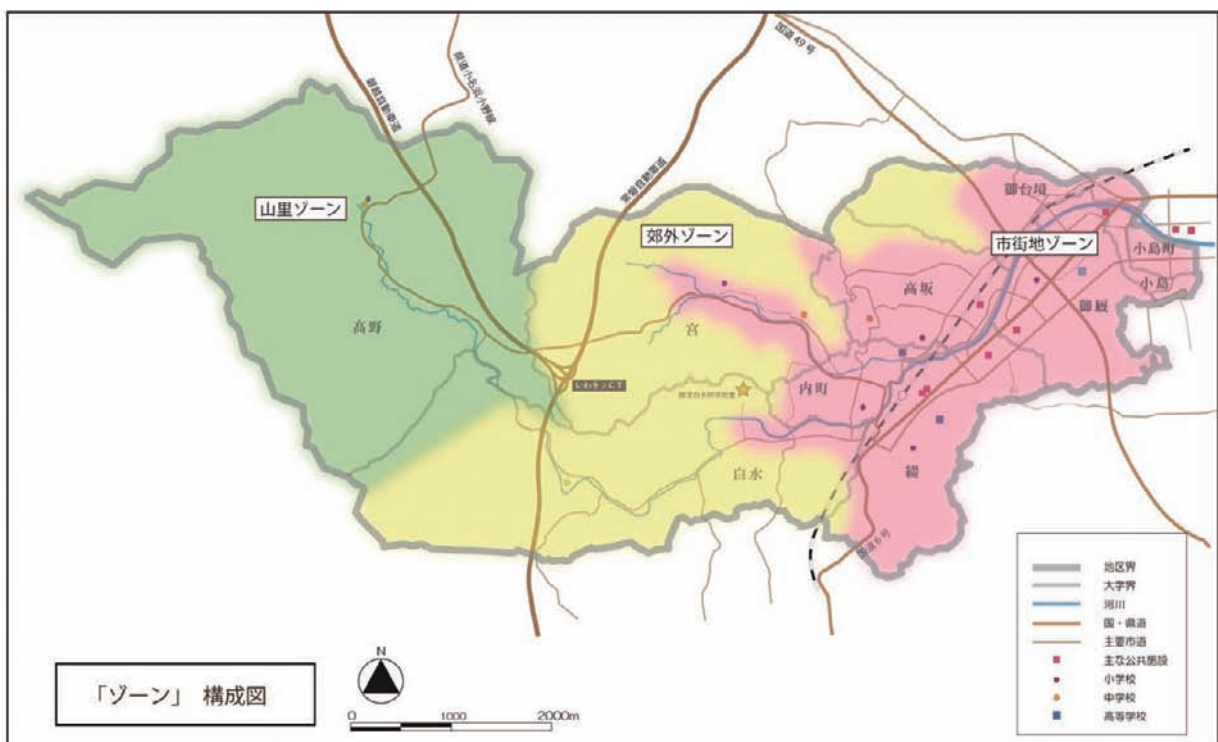
この「ゾーン」、「核」、「軸」を重ね合わせることによって、内郷地区が目指す将来都市構造とし、この構造全体で、地区の将来像「宝の郷（さと）」及びそのための「基本方向」の実現を目指すものとする。



イ) ゾーン

ゾーンの区分は、市街地から山里に至る内郷地区の環境の多様性を踏まえ、土地利用の状況や土地利用規制の区分を考慮して、次の3つのゾーンを設定する。

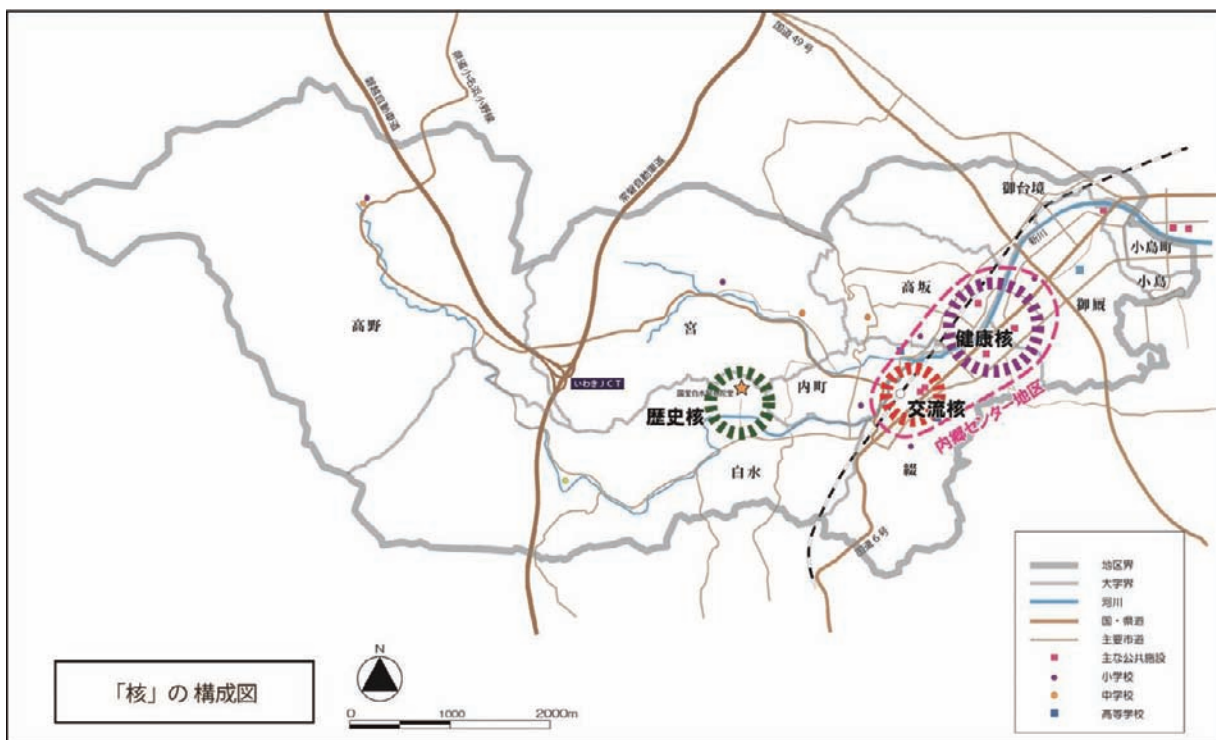
市街地ゾーン	地区の東部で市街化区域を中心とした部分	<ul style="list-style-type: none"> ・都市的な機能をバランス良く配置し、地区内及び広域的な拠点性の向上を目指す。 ・ゾーン内の交通ネットワークを強化し、都市拠点機能の利便性向上、円滑な機能発揮に資する。 ・治水や斜面対策など防災性を向上させ、市街地の安全性を確保する。 ・景観形成や文化財保護、緑化推進等により快適な居住環境、都市環境の形成を目指す。
郊外ゾーン	地区の中部で市街化調整区域に相当する部分	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地に隣接する山林の保全管理を図り、安全で美しい環境を後世に伝える。 ・国宝白水阿弥陀堂などの歴史文化資源の保全と活用により、地区個性の発揮、活力増進を図る。 ・都市的開発は原則として抑制し、市街地の無秩序な拡散を防止する。
山里ゾーン	地区の西部で都市計画区域外に相当する部分	<ul style="list-style-type: none"> ・里山や清流の適切な保全管理により、その価値を高め、美しく快適な環境形成を図る。 ・都市的開発は原則として認めず、山林の保全と生活環境の調和により山里の環境を将来に伝える。 ・自然を活かしたレクリエーションや交流等の活動を推進し、山里の新たな価値を広めていく。



ウ) 核

「核」は、地区の特性に見合った生活や産業に関する各種の機能が集積し、人、もの、情報の流れが集まり、交流する拠点、結節点の役割を果たすところで、内郷地区内に次のような「核」を設定する。

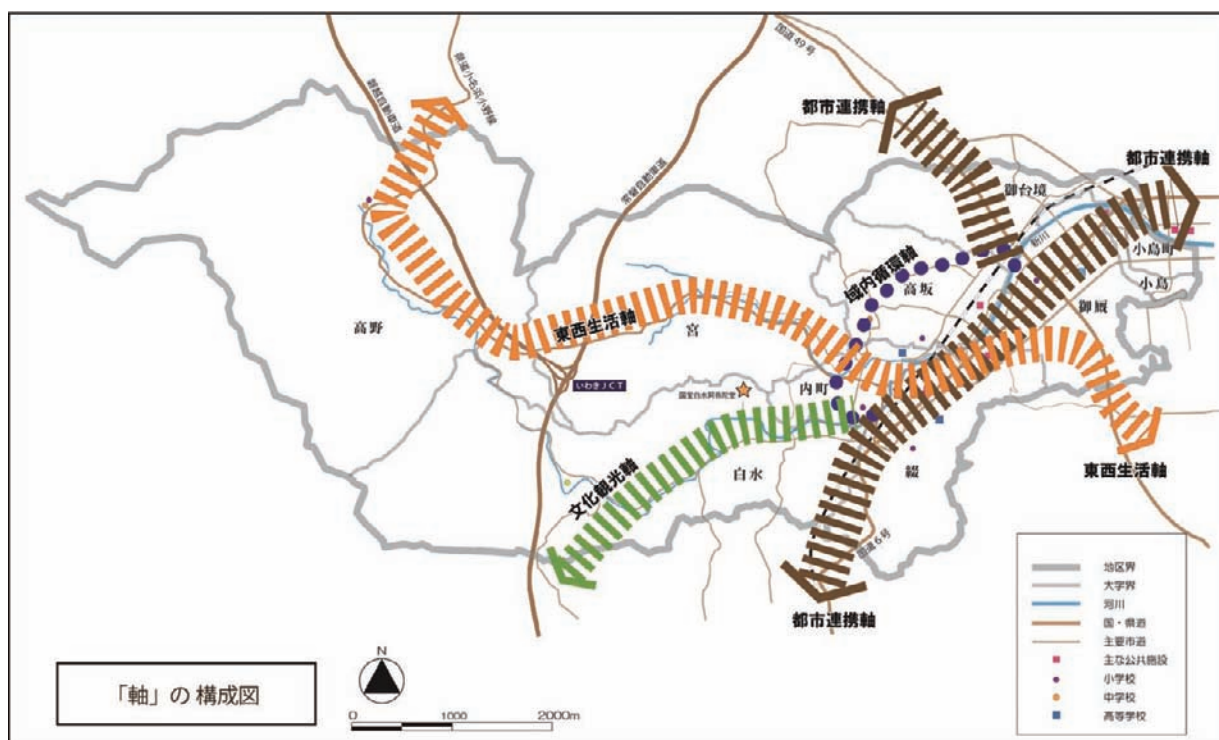
交流核	内郷駅、支所、公民館等を中心とする範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄道駅を擁し、回轉櫓盆踊り大会も行われる拠点性を活かせるよう、商業機能や生活拠点機能の集積、強化を進める。 ・ 各施設を有効に活用し、人を集める様々な活動を展開する。 ・ 鉄道の横断も含め、各方面からのアクセス改善を図る。 ・ 拠点にふさわしい道路等の快適性、安全性向上を図る。
健康核	2病院、総合保健福祉センターを中心とする範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院や保健福祉に関連する施設、産業の立地集積の促進、広域から集まる人々との交流機能の充実を図る。 ・ 市内各方面からのアクセス改善を図る。 ・ バリアフリー化をはじめ、誰もが安全、快適に利用できる施設構造、道路環境等の整備を進める。
歴史核	白水阿弥陀堂とその周辺の範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国宝白水阿弥陀堂や周辺の近代化産業遺産等の所有者との協働による保存、活用の活動を展開する。 ・ アクセス道路環境の整備や景観向上など、文化資源の価値を高める条件整備を進める。
内郷センター地区	「交流核」+「健康核」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内郷駅から総合磐城共立病院、総合保健福祉センターにかけての「交流核」と「健康核」を合わせた部分を内郷の中心をなす地区と位置づけ、拠点機能の強化を図る。



エ) 軸

「軸」は、内郷地区内の「核」の相互間、また地区外とを結び、人やものや情報が集まって流れる動脈となり、「核」に集積する機能の地区全体での利用利便を保障する骨格となるものである。内郷地区での「軸」を次のように設定する。

都市連携軸	湯本方面～内郷センター地区～平方面 内郷センター地区～好間・三和方面	<ul style="list-style-type: none"> ・(都)内郷湯本線の整備など幹線道路機能の強化を進める。 ・国道6号、(都)内郷駅平線、国道49号等の安全で快適な交通環境整備に努める。 ・内郷駅とJR常磐線の利便性向上を促進する。
東西生活軸	上荒川方面～内郷センター地区～宮～高野～好間方面	<ul style="list-style-type: none"> ・県道小名浜小野線などにおける狭あい部分の拡幅など、円滑な交通確保を進める。 ・生活軸として交通安全環境の向上や道路景観整備、公共交通機能の確保を図る。
文化観光軸	内郷センター地区～歴史核～いわき湯本IC・ハワイアンズ方面	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道や植栽等も含め安全で快適な道路環境形成を進める。 ・円滑な観光誘導のため、交通案内機能の強化を図る。
域内循環軸	内郷センター地区～内町・高坂方面循環	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅地内の交通安全環境の向上を進める。 ・鉄道の横断など域内のネットワーク性の強化を図る。 ・公共交通機能の確保を図る。





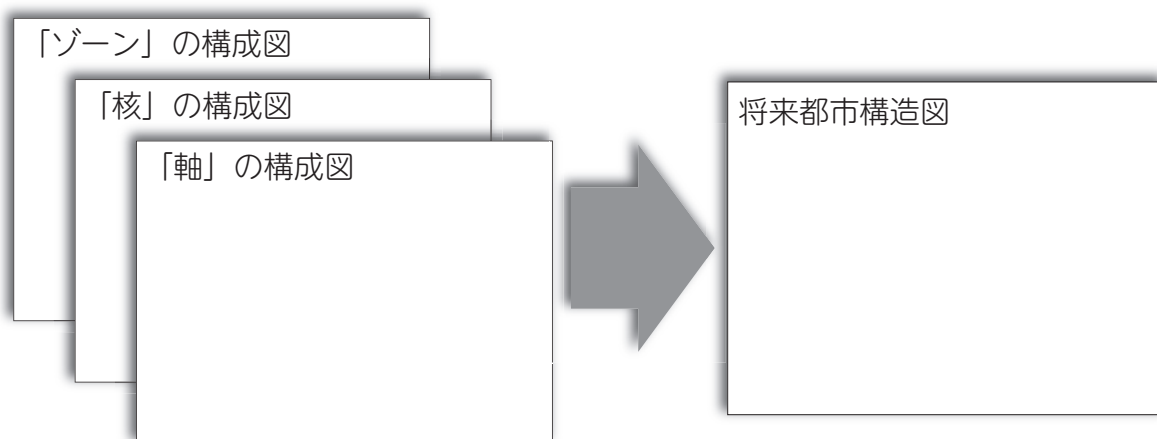
国道6号

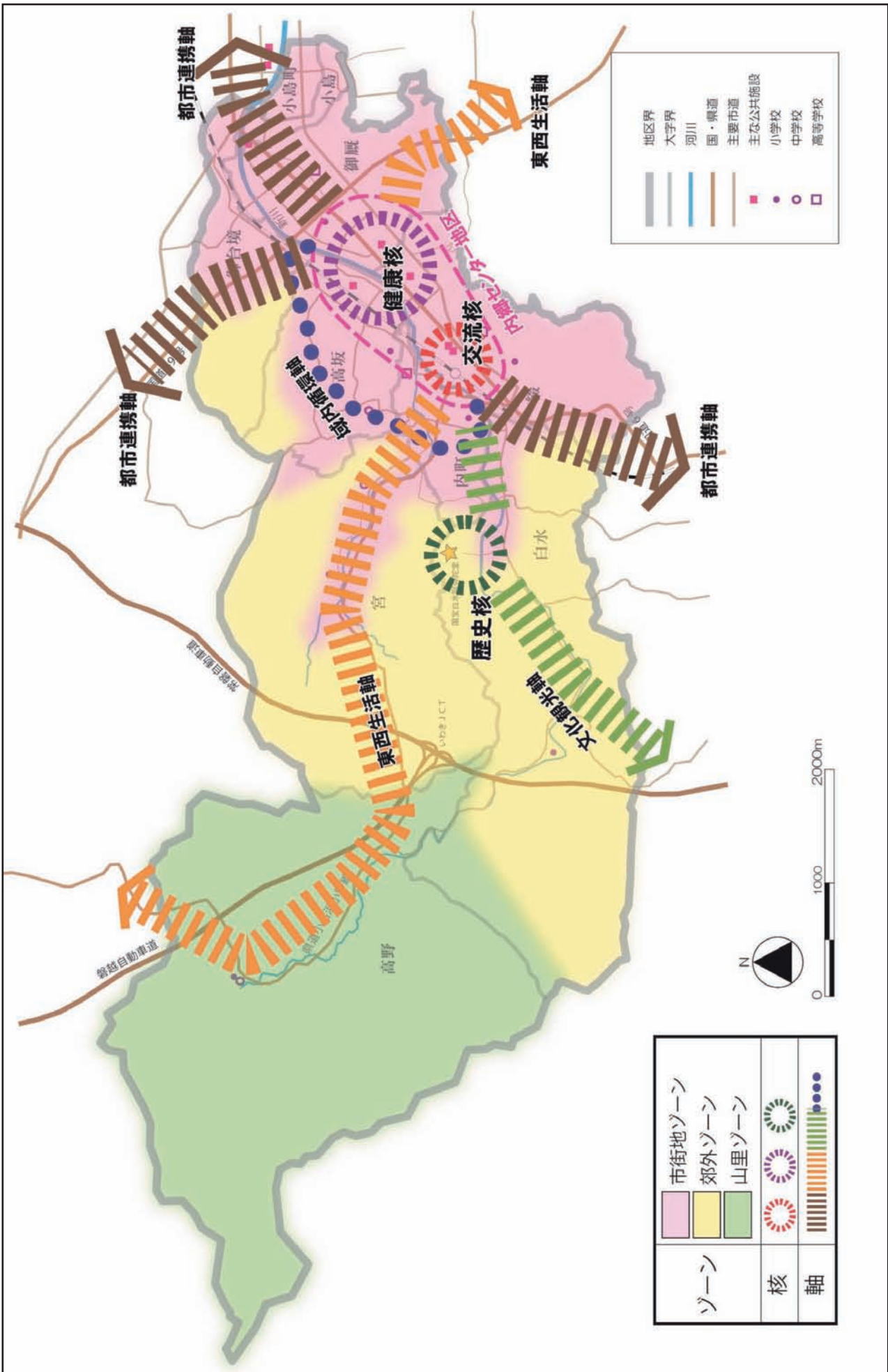


雪のJR常磐線

オ) 将来都市構造図

以上の「ゾーン」、「核」、「軸」を重ね合わせ、内郷地区の将来都市構造図とする。





ゾーン	市街地ゾーン	郊外ゾーン	山里ゾーン
核			
軸			

	地区界
	大字界
	河川
	国・県道
	主要市道
	主な公共施設
	小学校
	中学校
	高等学校